

アカモズの生息に適したリンゴ栽培の方法は？



松宮裕秋（信州大院・総合理工 修士2年） 赤松あかり（同農学部3年） 原星一（同OB）

■ はじめに

アカモズ *Lanius cristatus superciliosus* は全国的に激減している夏鳥で、現在では北海道と本州の一部にわずかに生息するのみとなり絶滅が心配されています。このアカモズですが、残された生息地の一つである長野県ではリンゴ果樹園に生息しています。私たちはリンゴ園のアカモズについて2012年から保全に向けた生態、分布についての調査やリンゴ農家の方々への普及活動を行っています。これまでの調査で、県内のアカモズが生息する地域は数ヶ所に限られていることや、それらの地域ではここ5年ほどは個体数の減少は見られず安定して生息していることが分かりました。また、下草を残している果樹園（草生法）を好んで生息することが分かりました。しかし、その果樹園が本当にアカモズの生息に適しているか判断するためには、**繁殖成績、餌の豊富さ、天敵と捕食圧などにも着目**する必要があります。そこで、異なる地域や栽培方法の果樹園間でそれらと比較し、**アカモズの生息に適した栽培管理方法を解明**します。

■ 調査地

長野県内のアカモズが生息するリンゴ果樹園

■ 調査期間

2019年5～8月



■ 調査内容

以下の調査を行い、多様な雑草を用いた草生法、単一の牧草を用いた草生法、部分草生法といった農法（※1）ごとに、結果を比較する。

1、繁殖成績調査

繁殖するアカモズの一腹卵数、孵化雛数、巣立ち雛数を記録し巣立ち率を算出

2、餌資源量調査

ピットフォールトラップやスーピング法など複数の方法を用いて果樹園内の昆虫を捕獲

3、捕食者調査

アカモズの巣をセンサーカメラで撮影し捕食者（※2）の特定を試みる



（※1）除草の程度の違う果樹園の例
どちらもアカモズの生息する果樹園だが、
左（部分草生法）は右（草生法）に比べて
除草されている度合いが大きい。
生育する雑草の多様性も園地によって異なる。

（※2）予備調査でノネコによる卵や
雛の捕食が確認された。絶滅危惧種
であるアカモズにとってノネコが大きな
脅威となっている可能性がある。

■ 必要経費など

頂いた支援金は、調査の際の交通費、センサーカメラやトラップの購入費に充てる予定です。

◇これまでの調査研究で生息状況や栽培方法との関係が少しずつ明らかになってきました。また、アカモズの保全に理解を示していただき、協力して頂ける農家さんも増えてきました。2019年はこれまで生息が確認された地域で個体数モニタリングを続けつつ、アカモズと果樹園の関係をさらに明らかにしていきたいと思っております。本研究で得られた結果が農業と鳥類の保全を両立する手立てとなればと考えております。ご支援、何卒よろしく願いいたします。